別紙２

令和５年度　　城山中学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

１　教育目標（目指す生徒像含む）

（１）　基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる人間の育成を目指す。

（２）　具体目標

１　心身共に健康で勤労を尊ぶ生徒
２　基礎となる学力を身に付け、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
３　礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
４　主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
５　文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

（３）　生徒の信条

「強く、賢く、美しく」

２　学校経営の理念（目指す学校像含む）

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、全ての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

３　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（１）　現行学習指導要領に基づき、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、目標に向かって粘り強く取り組むことが求められる活動等を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。　〈生徒〉

（２）　互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに働き方改革の推進により職員の負担軽減と業務の効率化を図る。　〈教職員〉

（３）○小中間の連携強化を図り義務教育の連続性の確保と、地域人材・地域教材を有効に活用し、地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。　〈小中一貫教育・地域学校園〉

【城山地域学校園教育ビジョン】　～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～
みんなで育てよう！　自分を愛し、仲間を愛し、地球を愛する城山の子

４　教育課程編成の方針

関係法令、県教育振興基本計画２０２５、第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画や指導の重点に基づき、生徒が持続可能な社会の創り手となることができるように、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。その際、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等と連携した、地域に根ざした豊かな体験活動の実施を図る。

５　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営

○一人一人のよさを認め励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実○地域の教育力、小中の連携を生かした教育活動の推進・目標に向かって粘り強く取り組む力を育む教育活動の工夫（ＳＤＧｓへの取組活用）・組織的対応及び業務の効率化等による働き方改革の推進・全職員の学校経営参画意欲の向上

（２）学習指導

○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実（学習計画表等の活用）・学習評価による授業改善・学習改善の充実（指導と評価の一体化）・ＩＣＴを活用した授業の充実○ＳＤＧｓ、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進

（３）児童生徒指導

・常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導の充実・自己有用感を高める指導の充実○認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止・生徒参画による校則の見直しを通した規範意識の醸成

（４）健康（体力・保健・食育・安全）

・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開・健康（感染症対策を含む）と食の安全確保のための衛生管理・学校栄養士を核とした望ましい食習慣の形成と食に対する感謝の念の育成〇家庭・地域・行政と連携して実施する危険予測・回避能力育成のための指導の充実

６　自己評価　A1～A20は市共通評価指標　B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充　B継続　C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

第２次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評　価
１－（１）確かな学力を育む教育の推進	Ａ１　生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０％以上 （Ｒ５：９０．４％）	①　学力調査等の結果を分析し、生徒の学習における課題を明確にした上で、自分の意見の根拠をきちんと述べて発表するなど、中身を深めた質の高い話し合い活動の機会を増やす。 ②　ふれあい文化教室や大谷石加工体験学習などの外部講師による授業や、自分の考えを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業などにより、生徒の思考力・判断力・表現力等を高める。	Ｂ	【達成状況】 ・数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①学力調査等の結果を分析・共有し、生徒の学習における課題を明確にした上で、自分の意見の根拠をきちんと述べて発表するなど、中身を深めた質の高い話し合い活動の機会を増やす。 ②ふるさと学習やあったか活動などの地域交流活動において、自分の考えを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れることで、生徒の思考力・判断力・表現力等を高める。
１－（２）豊かな心を育む教育の推進	Ａ２　生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０％以上 （Ｒ５：９０．０％）	①　冒険活動教室や職場体験学習等で、人・自然・社会との関わりを通した体験活動の充実を図り、感謝の気持ちをもって生活する心を育成する。 ②　道徳、学級活動の時間を中心に、お互いに助け合う場面を作り、認め合う活動を意図的に取り入れるなど、「ありがとう」という感謝の言葉が自然に出るような支持的な雰囲気を醸成する。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.0％で昨年度より 1.3％下回ったが、数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・日常の場面での相互理解を大切に指導するとともに、冒険活動教室等の旅行・集団宿泊的行事や道徳、学級活動の時間などで、互いに協働したり合意形成したりする場面を意図的に作りながら指導していくことで、相互に認め合う心を育成する。
	Ａ３　生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ８５％以上 （Ｒ５：８５．９％）	・　学校行事や部活動などでの困難を乗り越える体験を通して、「褒めて伸ばす」「一人一人の個性を生かす」指導を継続するとともに、生徒には能力に応じた目標を設定させ、自己評価を行うことで、達成感や自己有用感を味わわせ、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度を育む。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.9％で昨年度より 0.5％下回ったが、数値指標を達成することができた。一方、教職員評価が低く、肯定的回答が 61.9％であった。 【次年度の方針】 ・生徒が主体的に取り組めるような機会を増やし、達成感や成就感を味わわせることで、自己肯定感を高める。また、生徒が自ら目標を設定し自己を振り返る活動を充実させるとともに、その活動の中で教職員が個々の状況を把握し、適切に指導・支援をしていく。
１－（３）健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	Ａ４　生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０％以上 （Ｒ５：９０．８％）	①　保健体育の授業において、補強運動を積極的に取り入れ体力の向上を図る。 ②　偏った残食が出ないよう、バランスよく食べることを啓発していく。（ＳＤＧｓ12 作る責任・使う責任） ③　交通安全教室、避難訓練等を通して、正しい意思決定や適切な行動選択ができるようにする。	Ｂ	【達成状況】 ・数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・左記①③を継続するとともに、②は「残食を出さない」ということに囚われず、すべての生徒が栄養バランスを意識して給食を食べることができるようにする。

１－（４） 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	Ａ５　生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ８５%以上 （Ｒ５：８８．４%）	・　学級活動(3)イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」や、道徳Ｃ(12)「社会参画・公共の精神」の学習等を工夫し、自分の夢や進路等について考えさせ、あったか活動を通し地域の一員として社会貢献への意欲を高めることにより、自己有用感を高める。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、88.4%で数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・ふるさと学習、城山あったか活動を継続するとともに、地域学校園小学校や地域のイベントなどにボランティアとして積極的に関わる機会を設ける。
２－（１） グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	Ａ６　生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ８５%以上 （Ｒ５：７３．１%）	・　英語の授業でＡＬＴを効果的に活用するとともに、給食の時間や昼休みなどにも生徒とＡＬＴがコミュニケーションを図る機会を増やしながら、積極的に話している場面を見た教員が認め励ますなどして、英語力を向上させる。	Ｂ	【達成状況】 ・次年度に向けて改善が必要。 【次年度の方針】 ・英語の授業や日常生活の中でＡＬＴを効果的に活用することで、生徒とＡＬＴがコミュニケーションを図る機会を増やすと共に、授業中に生徒同士で話す・聞く・書く・読む活動を充実させる。
	Ａ７　児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ８０%以上 （Ｒ５：８９．２%）	①　ふるさと学習で学年ごとのテーマを設定し、環境や地域文化財、産業、福祉等について学習を行い、郷土の良さを知るとともに、愛情と誇りをもたせるようにする。 ②　朝の会や教科等の授業の中で関連する内容を学ぶ際に、宇都宮や地域の行事・活動だけでなく、宇都宮学を活用し、大谷石文化を積極的に紹介したりする。 ③　保護者の啓発を行うため、各種たよりや保護者会等での情報発信に努める。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、89.2%で昨年度より 0.7%下回っているが、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ①ふるさと学習、学校給食の地産地消の推進を継続する。 ②大谷石加工体験を継続して行い、加工作業を通して大谷石文化の継承をしていく。 ③校長だよりや学校ホームページを通して生徒の活動の様子や地域行事にボランティア活動の様子を発信する。
２－（２） 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	Ａ８　生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ８０%以上 （Ｒ５：７８．３%）	①　タブレット型パソコンを授業に取り入れる方法を研究し、教室でのグループの話合い活動などに積極的に活用する。 ②　図書室の利用を教科等の年間指導計画に位置づけ、計画的に図書等を学習に活用する機会を設ける。	Ｂ	【達成状況】 ・次年度に向けて改善が必要。 【次年度の方針】 ①　全ての教科で１人１台端末を授業に取り入れる方法を研究し、調べ学習やまとめの活動などに積極的に活用する。 ②　図書室の利用を教科等の年間指導計画に位置づけ、図書館司書と連携して図書等を学習に活用する機会を設ける。
２－（３） 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	Ａ９　生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ７５%以上 （Ｒ５：７９．５%）	・　「持続可能な社会」の実現に向けて、教科や領域の学習において、学年目標に向けた具体的な手立てを考えさせるとともに、専門委員会などの活動を通して実行していく。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、79.5%で昨年度より 1.5%上回っており、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ・ふるさと学習や城山あったか活動を通して「持続可能な社会」を目指す取組を継続して行う。
３－（１） インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	Ａ10　教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 ９０%以上 （Ｒ５：１００%）	・　生徒指導部会や学年会議等において、特別な支援が必要な生徒の実態把握・情報共有に努める。また、特別支援教育コーディネーターを中心に関係教職員や関係機関等と連携を図り、適切な支援を行う。	Ｂ	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・生徒指導部会、各種会議において、生徒の実態把握と情報共有に努める。また、特別支援教育推進委員会で、個々に応じて適切な支援方法の検討を行い指導に役立てる。

３－（２） いじめ・不登校対策の充実	Ａ11　教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９５％以上 （Ｒ５：９４．４％）	①　学校生活のあらゆる場面でいじめが許されない行為であることを指導する。いじめに関する道徳の授業や学級活動のテーマとして取り上げる。 ②　学校でのいじめに関する取組をHPに掲載したり､メール配信システムを利用し、家庭に周知したりすることで、保護者へも啓発する。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.4%で昨年度より 1.4%下回り、数値指標を 0.6%下回った。次年度に向けて改善が必要である。 【次年度の方針】 ①学校生活を含むすべての活動においていじめが許されない行為であることを指導する。 ②全教職員で情報共有と行動連携を図り、生徒の行動を見守るとともに、学校での取組を保護者に周知することを通して､生徒にとって心的物理的安心のある環境づくりに努める。
	Ａ12　教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０％以上 （Ｒ５：９３．２％）	・　学級の係や学校行事を通して、生徒たちに任せる場面を設定したり、自己決定の場を設定したりすることで、その活躍を認め、励ます指導を行い、自己有用感・自尊感情を育む。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.2%で昨年度より 1.9%下回ったが、数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①日常の生活や学校行事等で､個々に応じて活躍できる場面や役割を設定し、「褒めて伸ばす指導」を充実させことを全教職員で共有し指導する。 ②生徒が相互によさを発見したり認め合ったりする場面を増やすことで､自己有用感を育むとともに学級や集団に自身の居場所や所属感を感じられるようにする。
３－（３） 外国人児童生徒等への適応支援の充実 ３－（４） 多様な教育的ニーズへの対応の強化	Ａ13　学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０％以上 （Ｒ５：９３．６％）	①　「褒めて伸ばす指導」を推進することで、生徒一人一人が自己肯定感を持ち、学校生活に満足感を得られるように支援する。 ②　生徒が主体的に活動できるように授業や学校行事、生徒会活動等の生徒が活躍できる機会を意図的に設定する。	Ｂ	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、93.6%で、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ①スモールステップの目標を設定し､生徒の達成感や自己肯定感の育成に努める。 ②生徒が主体となって学校行事や生徒会活動に取り組めるよう活動を計画する。
４－（１） 教職員の資質・能力の向上	Ａ14　教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０％以上 （Ｒ５：９２．０％）	①　「自分の考えを書いてまとめる等、思考力･判断力・表現力の育成」に重点を置き、さらに読解力を身につける授業改善に積極的に取り組む。また一人一授業を継続し、お互いのアイデアを参考により良い授業を目指していく。 ②　単元末テストや小テストを計画的に実施するとともに､生徒がワークブック等に意欲的に取り組める方策を検討し、基礎・基本の定着を図る。 ③　「学力を付けることの必要性」に対する生徒の意識の差が大きいことなどから、教科等で生徒の興味・関心が高い学習から社会につながっていることに気づかせ､学ぶ意義を理解させるよう努める。	Ｂ	【達成状況】 ・数値指標を達成できた。 【次年度の方針】 ・左記①、②、③を継続していく。

４－（２） チーム力の向上	Ａ15　学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 ９０%以上 （Ｒ５：９５．２%）	①　学校の組織力を強化するため、校務分掌や委員会所属等に配慮し、教育活動の充実を図る。 ②　朝の打合せ、日報、資料の回覧、職員会議等での情報交換・共有に努めるとともに、担当教員を中心として組織として生徒や保護者とコミュニケーションを図り、計画的に情報交換の機会を設ける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、95.2%で、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ①困ったときには、声を上げ互いに協力する雰囲気作りを日々行う。 ②学年主任会・学年会・生徒指導部会で情報共有を図り、生徒や保護者へ対応する。
４－（３） 学校における働き方改革の推進	Ａ16　勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 ８０%以上 （Ｒ５：７１．４%）	①　勤務時間に対する意識改革を進め、ミライムによる出退勤時刻の入力行うことで、勤務時間を意識した働き方を実践する。 ②　市部活動方針に基づき、休養日等を適切に設定し、運用を徹底する。 ③　各種団体からの研修会参加依頼やコンクール等への出品依頼等を精選する。	A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、71.4%で昨年度を 13.7%上回っているが、数値指標を達成していない。 【次年度の方針】 ・①②③の各視点で働き方を見直し、勤務時間を意識した働き方を実践する。
５－（１） 全市的な学校運営・教育活動の充実	Ａ17　学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０%以上 （Ｒ５：９０．８%）	①　小中一貫教育主任、部長、分科会長を中心として、小中の教職員間のよりよい協力体制を築き、新型コロナ感染症対策を行い、交流事業が実施できるように小中学校間の連携を図る。 ②　小中が連携した取組を各種たよりで生徒や保護者へ情報発信するとともに、あいさつ運動等の活動に参加した生徒の感想を校内放送するなど、生徒への啓発を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、90.8%で昨年度を 32.1%上回っており、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ①小中一貫推進教員を中心として、校内の協力体制を築き、小中間の連携を密にとり、ボランティア活動や学習発表会での交流促進を図る。 ②交流活動に参加して生徒の感想を校内放送し、学校だよりやホームページに積極的に取り上げ、生徒や保護者への啓発を図る。
５－（２） 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 ５－（３） 地域と連携・協働した学校づくりの推進	Ａ18　学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 ８５%以上 （Ｒ５：８７．７%）	①　外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用等の防止教室や、保健・安全・福祉等の講座を検討・実施する。 ②　地域連携教員と地域コーディネーターを中心に、魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、外部人材の協力を得た活動の検討と人材の発掘に努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、87.7%で昨年度を 0.3%上回っており、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ①各種防止教室に保護者参加を募る。 ②継続的に城山ギャラリーに地域人材の作品を展示し公開する。
６－（１） 安全で快適な学校施設整備の推進	Ａ19　学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 ９０%以上 （Ｒ５：９５．２%）	①　毎月の安全点検を確実に実施し、対処が必要な部分は適切に処理する。 ②　災害・事故等緊急事態に適切に対応できるようにするため、職員間での連携・共通理解を徹底していく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答 90%以上は達成することができた。しかし、教職員・保護者・地域住民の数値は低下し、保護者・地域住民は 90%以下になった。 【次年度の方針】 ・左記①②を継続するとともに、保護者や地域住民への情報発信に努める。
６－（２） 学校のデジタル化推進	Ａ20　コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 ８０%以上 （Ｒ５：９５．２%）	・　全生徒に配付されたタブレット型パソコンについて、全教職員が情報交換を図りながら、有効活用に努める。	B	【達成状況】 ・数値指標を達成できた。 【次年度の方針】 ・全生徒に配付された１人１台端末について、情報教育担当者が中心となり、全教職員が情報交換を図れるようにして、有効活用に努める。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	Ｂ１　生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９５%以上 （Ｒ５：９６．４%） 地域住民の肯定的回答 ９０%以上 （Ｒ５：１００%）	①　地域学校園内の小学校や地域協議会や外部機関と連携をした「あいさつ運動」を、さらなる活性化を目指し工夫する。 ②　「あいさつ運動」を生徒会活動に位置付けて計画的に行いながら、充実させる。校外活動においても気持ちの良いあいさつができたときに称賛し、一人一人の意識の高揚を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.4%で昨年度より 0.6%下回ったが、数値指標を達成することができた。地域住民の肯定的回答は 100%で数値指標を達成することができた。一方、教職員評価が低く、肯定的回答が 76.2%であった。 【次年度の方針】 ①教職員からあいさつをすることを心掛け、日常のあいさつを大切にする。 ②地域学校園内の小学校や地域協議会と連携した「あいさつ運動」に加え、校内で実施しているあいさつ運動を充実させる。校外活動においても気持ちのよいあいさつを称賛し、一人一人の意識を高める。
	Ｂ２　生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０%以上 （Ｒ５：９４．４%）	①　生徒会活動を通して、生徒たちが服装・身だしなみチェックを主体的に取り組むことにより、身だしなみに対する意識付けをしっかり行う。 ②　学校にタブレットが導入されたことを受け、使用の仕方を主体的に見直す機会を設け、きまりやマナーを守る態度を育てる。また、SNS 関係のトラブルを予防するため、学級活動等の授業で、通信端末の使い方を考えさせ、決まりを守る心を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.4%で昨年度を 5.0%上回るとともに、数値指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ①生徒指導係と生徒会が連携し、生徒が主体的によりよい身だしなみについて考え、整えようとする意識を高められるよう、身だしなみを確認する機会を設ける。 ②生徒指導係と生徒会が連携して校則の見直し等を継続し、生徒が主体となってきまりや約束について考えたり決めたりすることで、自分たちのよりよい生活のために生徒が自らきまりやマナーを守っていこうとする力を育む。 ③SNS 関係のトラブルの未然防止について十分に指導をするとともに、タブレット端末を適切に活用できるよう、学級活動や集会においてデジタル・シティズンシップ教育を充実させる。
	Ｂ３　生徒は、手洗いやうがいを励行するなど、健康の維持増進に気を配っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０%以上 （Ｒ５：９４．４%）	①　保健体育委員が中心となって、手洗い・うがいチェックの方法を工夫して実施するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全職員が手洗い等の指導を徹底する。 ②　保健だよりに、時期に応じた健康課題や生徒の活動の様子を掲載するなど、内容の工夫･充実に努める。	B	【達成状況】 ・数値指標を達成できた。昨年度と比べると、教職員・保護者の数値は増加したが、生徒の数値は低下した。 【次年度の方針】 ・左記①②を継続するとともに、感染症拡大防止を図るため、生徒への指導が十分に行うことができるよう、教職員が協力して取り組む。
小・中学	Ｂ４　生徒は、朝の読書等により、読書の楽しさを味わっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ８５%以上 （Ｒ５：７９．５%）	①　朝の読書の時間等の確保に努め、落ち着いた雰囲気でしっかりと取り組むことができるようにする。 ②　図書委員による各学級でのブックトーク（本の紹介）を年間予定に組み込み、実施していく。 ③　掲示板等や図書館だよりを利用した本の紹介活動の充実を図り、生徒が積極的に読書の楽しさを味わえるように努めていく。	B	【達成状況】 ・次年度に向けて改善が必要。 【次年度の方針】 ①朝の読書に、落ち着いた雰囲気でしっかりと取り組むことができるようにする。 ②図書委員による各学級でのブックトーク（本の紹介）を年間予定に組み込み、実施していく。 ③掲示板等や図書館だよりを利用した本の紹介活動の充実を図り、生徒が積極的に読書の楽しさを味わえるように努めていく。

校、地域学校共通、本校の特色・課題等	Ｂ５　地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度が身についている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 ９０%以上 （９１．６%）	①　城山あったか活動やふるさと学習等の体験を通して、地域社会の一員として自分にできることを考えようとする態度を育てる。 ②　生徒へ地域行事やボランティア活動の情報提供や参加を推進するとともに、保護者への情報発信に努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は、91.6%で昨年度を0.8%下回っているが、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ①より一層生徒主体となって城山あったか活動に向けて活動させる。 ②地域より要望のあったボランティア活動参加への呼びかけを行う。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・【数値指標】について、２６の対象中、指標を上回り達成しているものは２１で、８０．８%の達成率であり、概ね満足の状態といえる。
・経年比較については、今年度新しく取り入れた質問が４つあり、これらは今年度比較できないので、来年度に注視していきたい。また、質問項目において、主語が、生徒アンケートで「生徒は」が「私は」に、教職員アンケートで「学校は」が「私は」に変更した。このことにより、より自己に基づいた評価になったため、数値が少し下がったことが考えられる。これらの項目についても、来年度に注視していきたい。
・肯定的評価が８０%を超えている割合は、生徒が２０項目中１６項目（８０．０%）、教職員が２５項目中２１項目（８４．０%）、保護者が１８項目中１１項目（６１．１%）、地域住民が１０項目中１０項目（１００%）であった。このことから、保護者以外の３対象者は、学校生活において概ね満足の状態であると考えられる。保護者についても、最も低いのが項目Ｂ４の６４．２%で、それ以外は７０%以上を保っている。
・宇都宮市との比較においては、１５%以上低い項目が、教職員のＡ３とＢ１で、今後も高い意識をもって取り組むよう職員会議等で伝達していく。それ以外は、市の平均とほぼ同じか、高い項目である。
・全体的に、保護者については、学校の取組についての説明や周知を図ることに努めていきたい。また、学校関係者(地域)については、今後も連携を図るとともに情報の提供等に努めていきたい。
・学習指導については、現行の学習指導要領全面実施から３年目に入ったことにより、全教職員が「主体的・対話的で深い学び」による学習指導の全体像をつかめてきた時期であり、結果にも徐々に表れている。今後は、そこからさらに授業力向上を目指すため、職員研修等が重要になってくる。
〇「今年度の重点目標」の【学習指導】「ＳＤＧｓ、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進」を、学校全体で継続し、小学校や県外の学校にも発信した。「ふるさと学習」「あったか活動」「大谷石加工体験」「城山地域学校園統一献立」「大谷資料館における第３学年合唱」が順調に根付いてきたので、この本校の強みを、さらに継続していきたい。
〇Ａ１７の「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」は、昨年から教職員、保護者から一定数の評価があった。しかし、生徒、地域住民からは低い評価であったが、今年度は高い評価を得られた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止・変更となった学校行事が、以前の状態に戻りつつあることから、このような結果が得られたと考えられる。今後も、地域・家庭に学校の情報を積極的に発信していく。

7　学校関係者評価

・回答の中には少し厳しいものもあるが、目標に向かってあきらめず取り組んでほしい。
・生徒一人一人を大切にし、活気あふれる生き生きとした学校の雰囲気がある。また、マナー・学力向上に取り組む様子が見られた。
・中学生が、地域行事のボランティアに多く参加してくれたので助かった。今後も一緒にまちづくりに取り組んでいけたらよい。
・登校時、生徒が中学生らしい大人のあいさつをしてくれる。
・A11 のいじめに関するアンケートについて、教職員が 100%に対して生徒や保護者が低かった。いじめに対しては、３者とも 100%を目指してほしい。原因の分析をお願いしたい。

８　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・アンケート、学校関係者評価では、今年度も貴重なご意見をいただいた。令和５年度の学校経営については概ね良好であり、教育目標（目指す生徒像含む）・学校経営の理念（目指す学校像含む）・学校経営の方針・今年度の重点目標に迫る教育を推進できたと考えられる。今後も地域と協力しながら学校教育目標の実現に向けて取り組んでいくとともに、総合的な評価で記述した項目に重点を置きながら、次年度の方針を具体化する教育活動の充実につなげていく。
○学校関係者評価にあったように、いじめについて、いじめ防止対策、全教職員の共通理解や組織としての取組による早期発見や早期解決が期待されている。いじめが許されない行為であることを、全ての学校生活を通して伝えていく。また、いじめの実態把握を確実に行えるよう、相談体制の確立や支援方法の多様化などを充実させていく。必要に応じて地域や警察等の関係機関と連携を図り、情報を共有できる体制づくりに努める。さらに、生徒や保護者への周知を図っていく。
・今年度、アンケート項目の変更があった。新たに分析をし直し、今後も家庭・地域と協力しながら学校教育目標のさらなる向上に向けて取り組んでいくとともに、総合的な評価で記述した項目に重点を置きながら、次年度の方針を具体化する教育活動の充実につなげていく。
○学力向上については、普段の授業改善はもとより、家庭学習の取組を学校園全体で取り組んでいく。
・教職員の働き方改革については、「業務の見直し」や「意識改革」を進めているところではある。また、教員以外の専門スタッフとの連携を充実させることで、よりよい教育効果が得られるよう取り組んでいく。さらに、地域や学校の両方向からの情報発信・共有を心がけ、開かれた学校の中で生徒が生き生きと学習や生活に取り組めるよう、保護者や地域との協働を推進していく。
○本校の強みである地域に根ざした教育の展開への重点化を継続し、地域学校園においても広げることで、生徒の自己有用感を高めさせる。また、目標に向かって活動を続けていく中で、困難な課題に対応する場面において、あきらめずにやり遂げさせ、「児童生徒の粘り強さ」を育ませる。